

3) 緑化計画

管理用道路工事によって発生する路肩法面については、国交省「道路工一切土工・斜面安定工指針」に基づく施工を行うとともに施工後、緑化を行う計画である。緑化方法については、平成27年度に環境省が策定した「自然公園における法面緑化指針」を基に「地域性種苗利用工」、「表土利用工」、「自然侵入促進工」を現地の状況により、選定するものとする。具体的には、切土、盛土の量が少ない道路際などの緩斜面法面については、土砂流出の危険性が低いことから、「自然侵入促進工」による施工とする。

湿地や河川に近接する場所や土砂流出の危険性が懸念され、早期緑化が必要であると考えられる法面については、「表土利用工」もしくは「地域性種苗利用工」による緑化を行う。

4) 防災計画

伐採工事に伴い、対象事業実施区域からの雨水流出量が増加するため、各排水路の流末には、調整池を設置し、流出抑制を行う施設計画とする。

なお供用時には、調整池が対象事業実施区域外への濁水流出の防止のための沈砂機能を果たす計画である。

5) 調整池計画

調整池の諸元は表1-6-7に、調整池の位置は図1-6-6(1-14頁参照)に示したとおりであり、計3箇所設置する。

表 1-6-7 調整池の諸元(予定)

調整池名称	流域面積 (ha)	洪水調節容量 (m ³)	堆砂容量 (m ³)	掘削延長 (m)	最大掘削深 (m)	切土量 (m ³)	盛土量 (m ³)
A調整池	107.96	62,300	4,700	129.4	13.3	36,000	0
B調整池	38.30	23,400	2,100	77.7	11.5	32,300	0
C調整池	131.54	71,500	4,000	235	13.5	76,000	0

A、B、C各調整池が対応する各流域および調整池平面図を図1-6-9～図1-6-14に示し、各調整池の標準断面図を図1-6-15に示す。

調整池の設計は長野県建設部指導(流域開発に伴う防災調節池等技術基準)、長野県林務部指導(林地開発許可申請の手引)に基づくものであり、降雨強度式は50年確率降雨強度式を採用し計画している。

堆砂容量は、工事中4カ月に一度、工事竣工後3年に一度の浚渫を実施することを前提として、それぞれ必要となる容量を算定している。

今回示す調整池に関わる設計内容は、今後関係機関の指導により変更の可能性がある。

また、図1-6-9～図1-6-11において各調整池に流れ込まない無調整区域についても示すが、この無調整区域は流出量を下流域の流下能力からあらかじめ差し引く形で補正する。(林地開発許可申請の手引；技術細部基準による)

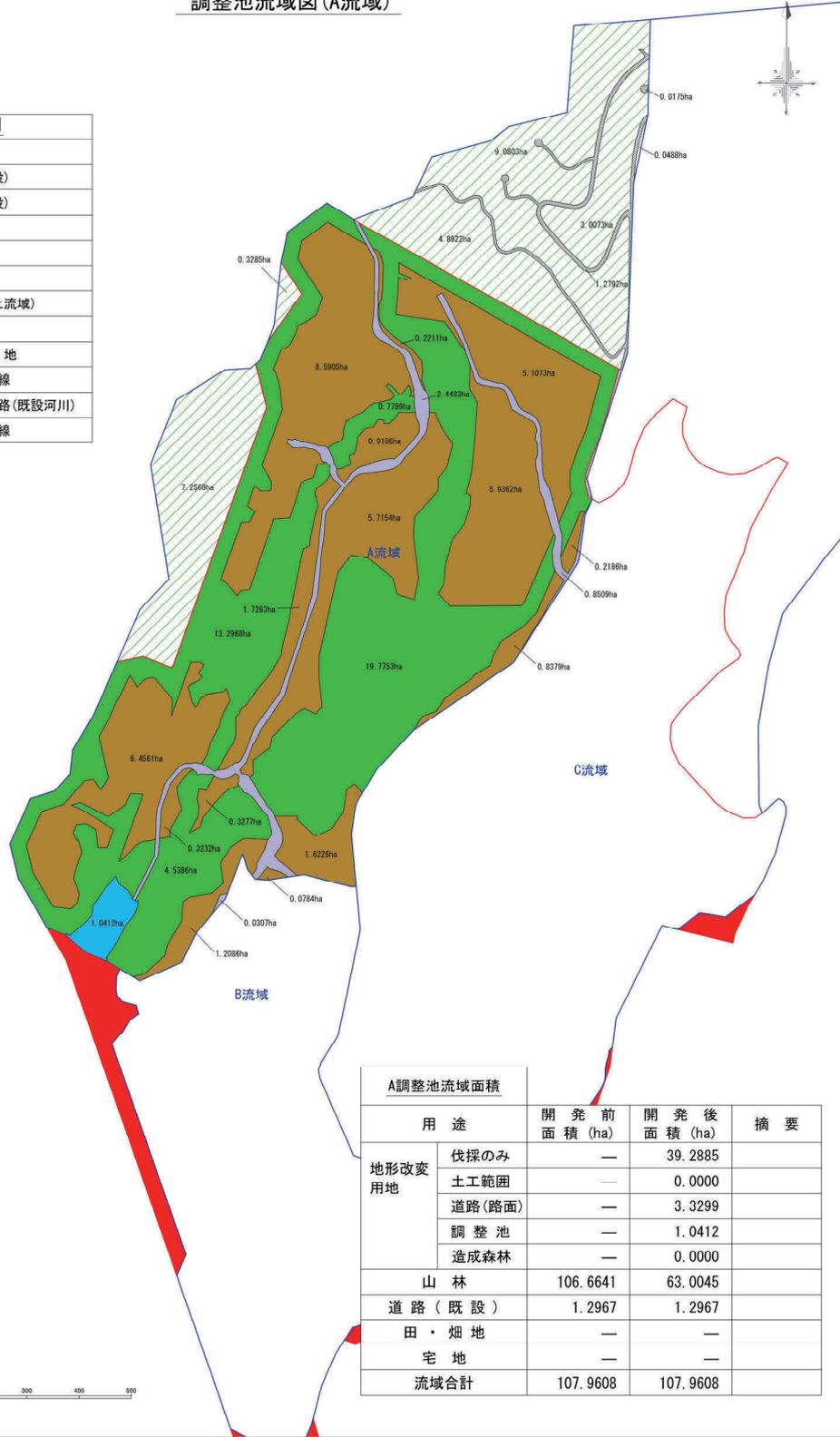
ピーク流量を越えた雨水は、オーバーフロー水となって、調節池の堰堤上部にある余水吐より下流河川に放流される。

尚、余水吐の構造条件は、200年確率を満足する断面構造とする。

また、堰堤直下の水叩き部は、洗掘防止のため布団籠工等を計画する。

調整池流域図 (A流域)

凡例	
	調整池
	道路(既設)
	道路(新設)
	土工範囲
	宅地
	伐採のみ
	山林(上流域)
	山林
	無調整地
	事業区域線
	既設排水路(既設河川)
	流域区分線



A調整池流域面積			
用途	開発前 面積 (ha)	開発後 面積 (ha)	摘要
地形改変 用地	伐採のみ	—	39.2885
	土工範囲	—	0.0000
	道路(路面)	—	3.3299
	調整池	—	1.0412
造成森林	—	0.0000	
山林	106.6641	63.0045	
道路(既設)	1.2967	1.2967	
田・畑地	—	—	
宅地	—	—	
流域合計	107.9608	107.9608	

図 1-6-9 A 調整池流域図

A調整池

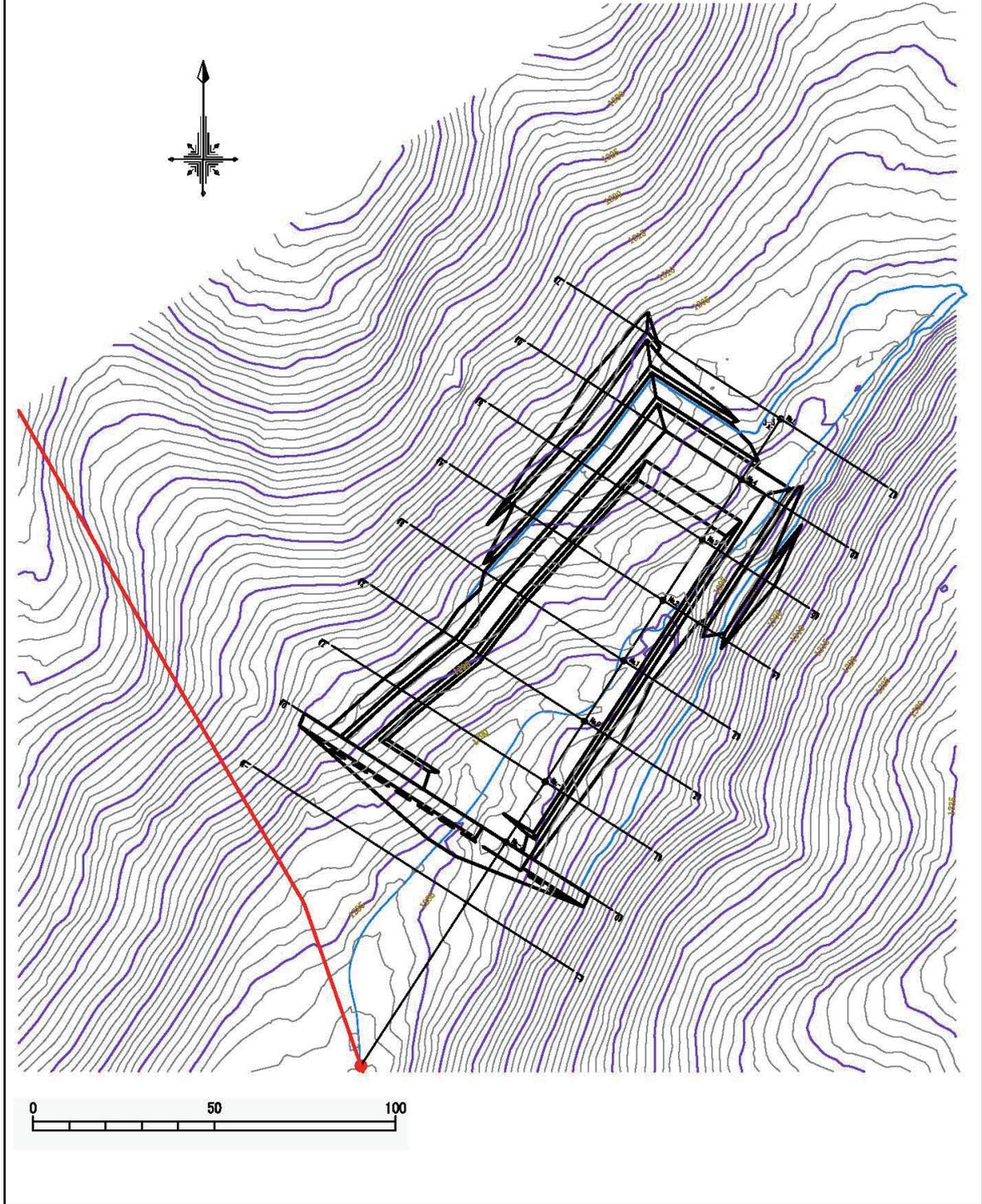


图 1-6-10 A調整池平面図

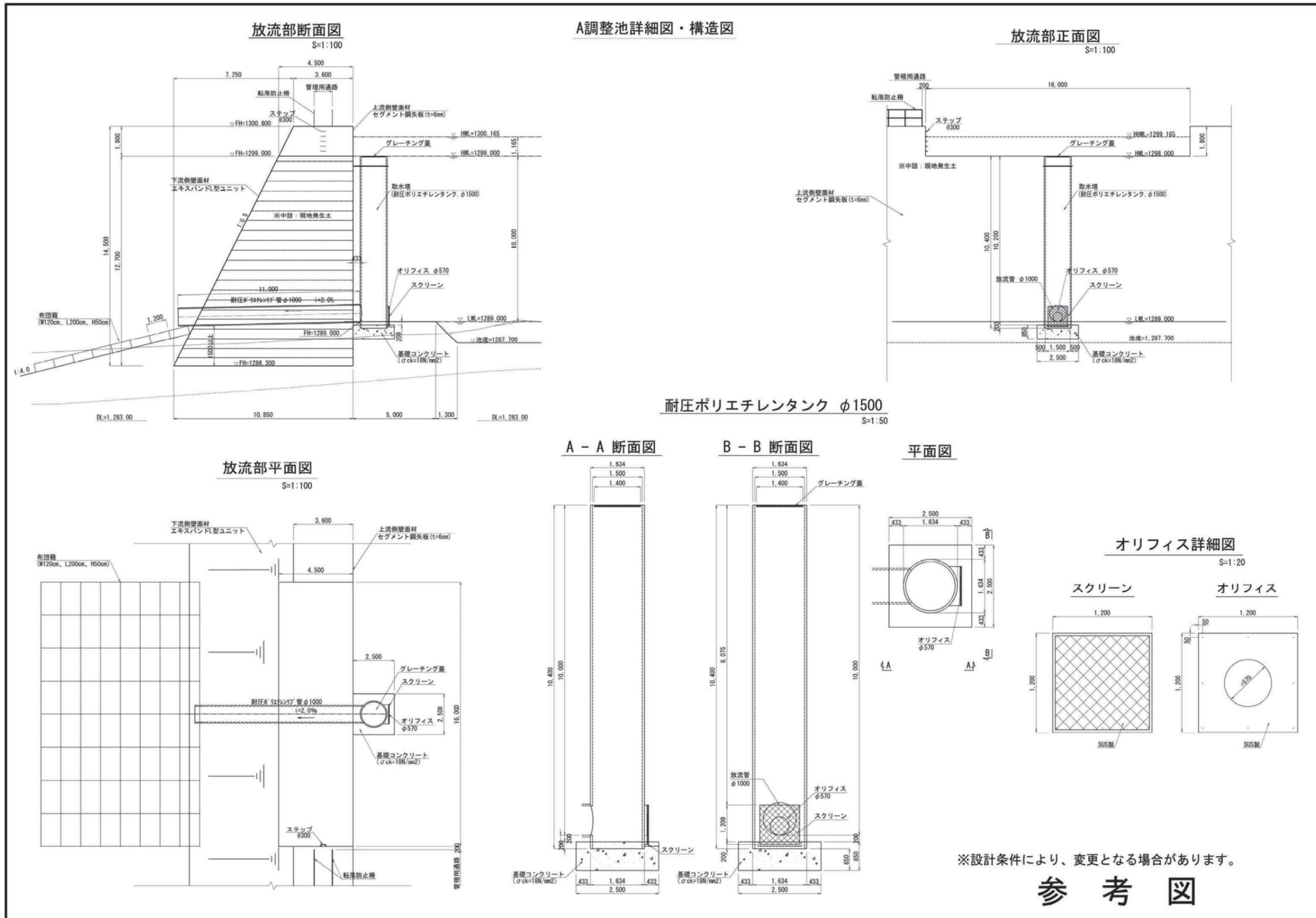
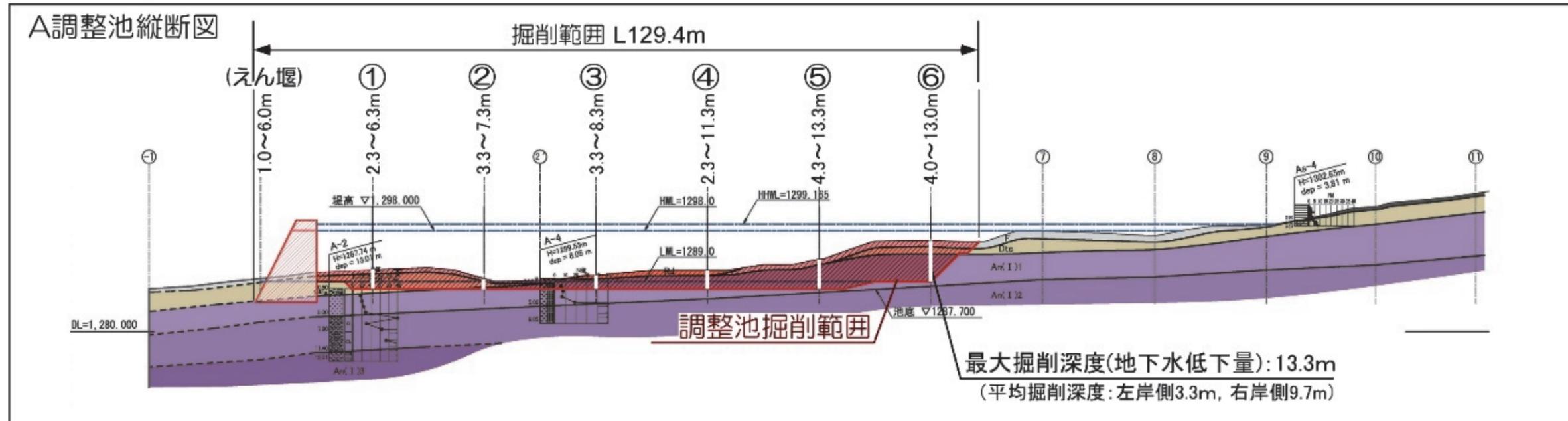


図 1-6-10-1 A調整池構造図



地質層序表

時代	地層名	土質・地質区分	地質記号	H27年報告書 調整池断面図 地質記号対比	
完 新 世	表土	黒ボク	F	F	
	河床谷底堆積物	玉石混じり砂礫	Rd	Rd	
	崖錐性堆積物	礫混じりローム 玉石混じり砂礫	Dtc	Dtc	
第 四 紀	霧ヶ峰火山岩類 火山砕屑岩 I 凝灰角礫岩	強風化岩	Tf(I)1	—	
		風化岩	Tf(I)2	—	
	安山岩熔岩 I	強風化岩	An(I)1	Tf[1] (D)	An[1] (D)
		風化岩	An(I)2	Tf[1] (CL~CM)	An[1] (CL~CM)
		新鮮岩	An(I)3	An[1] (CM~CH)	

図 1-6-10-2 A 調整池縦断面図

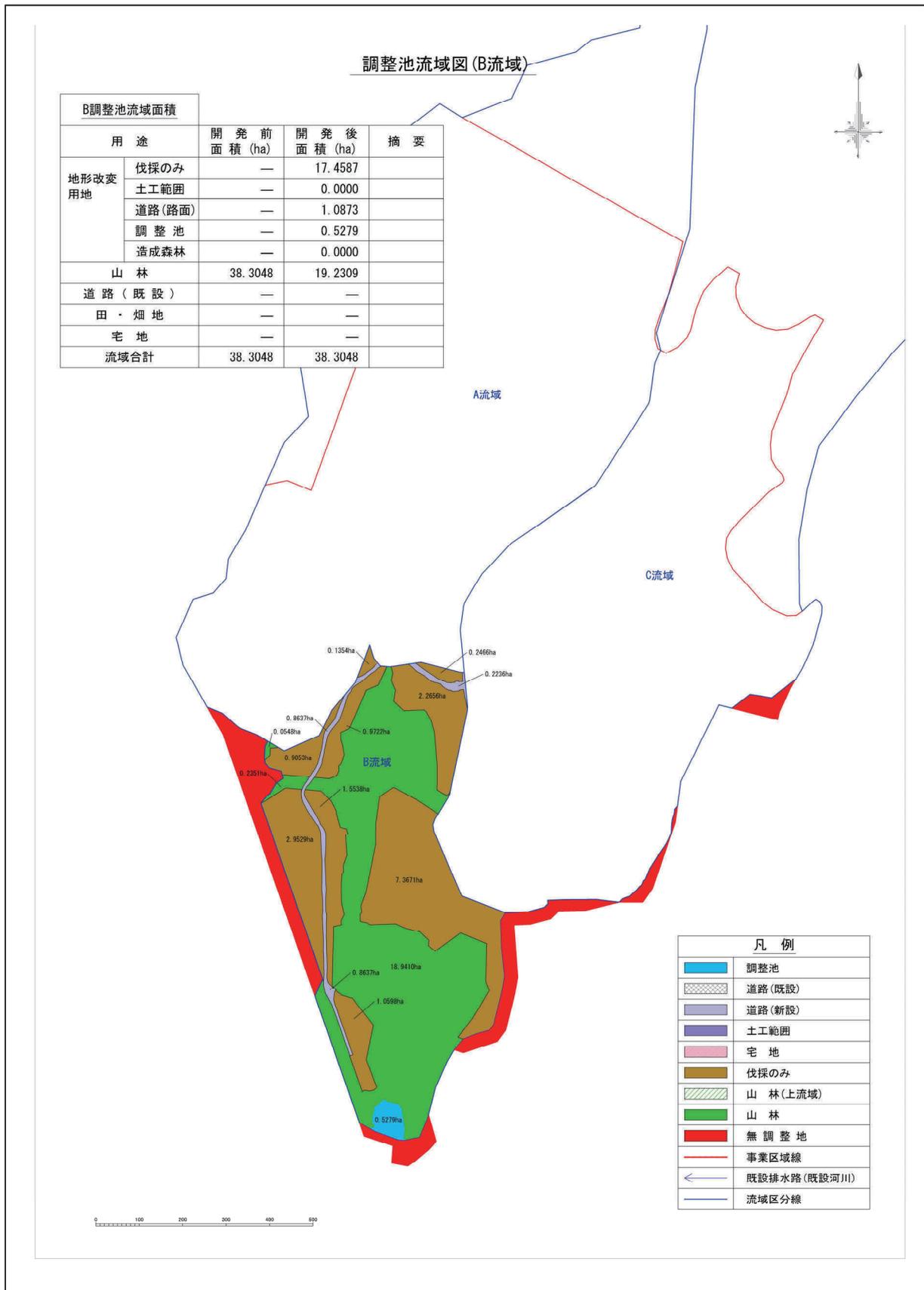


図 1-6-11 B調整池流域図

B調整池

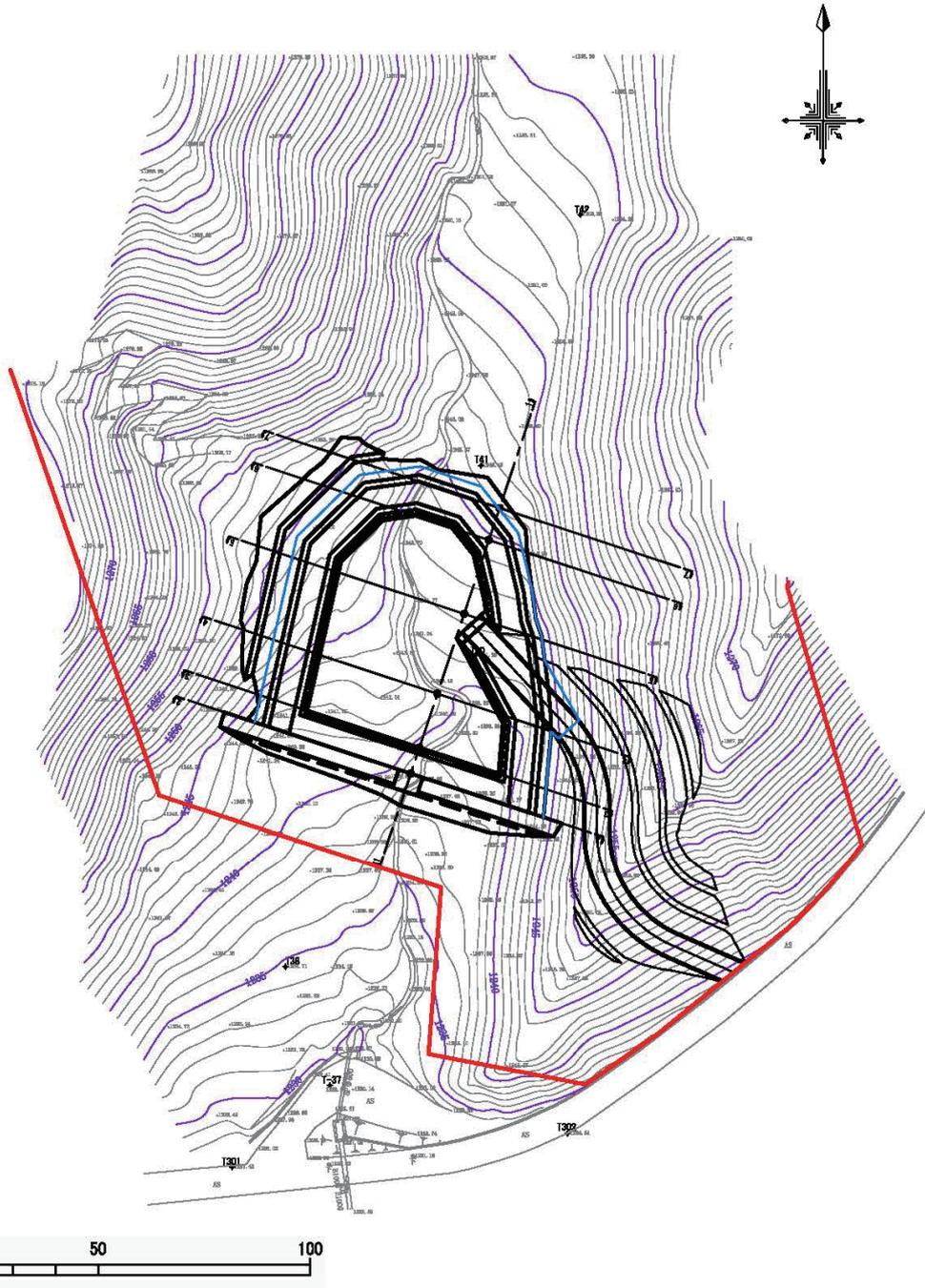
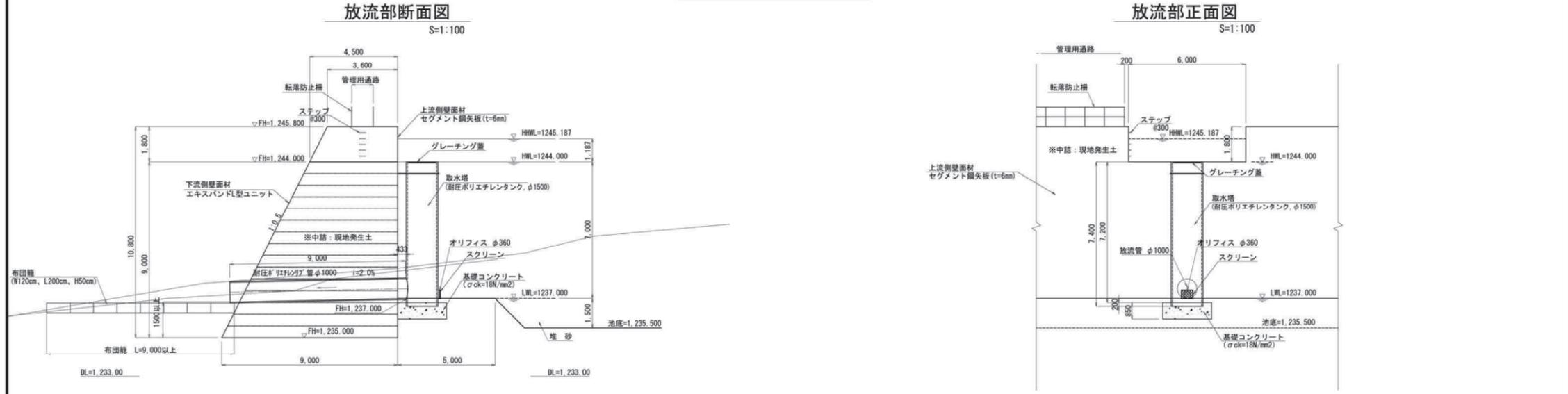
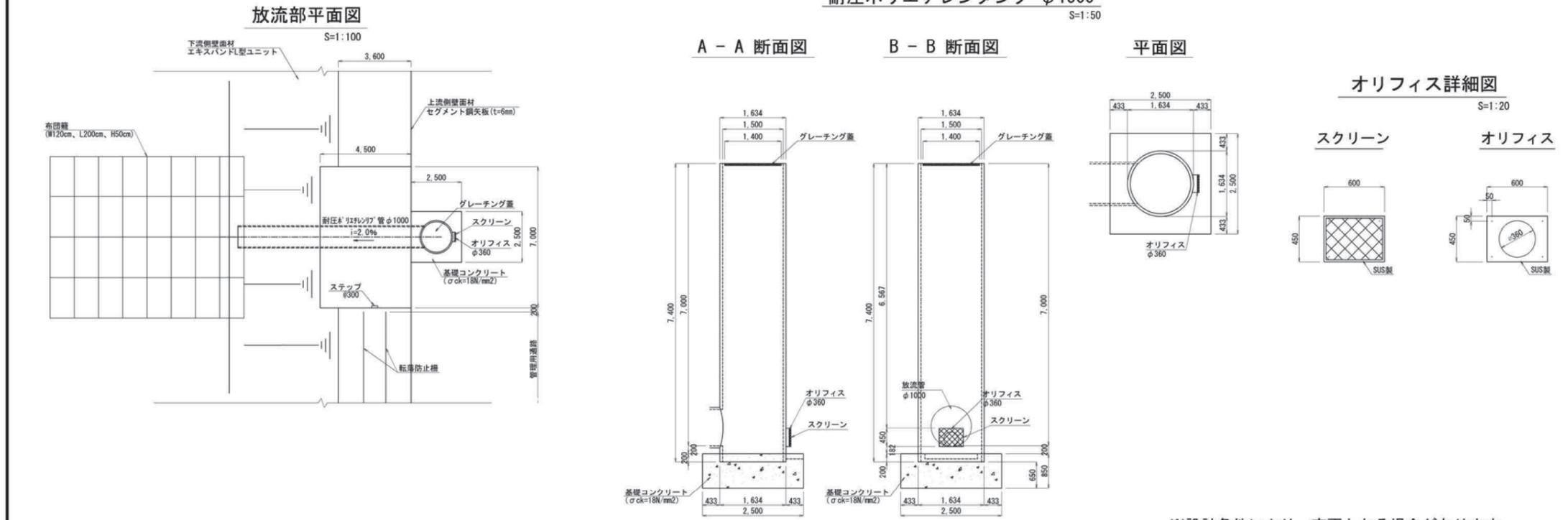


图 1-6-12 B調整池平面图

B調整池詳細図・構造図



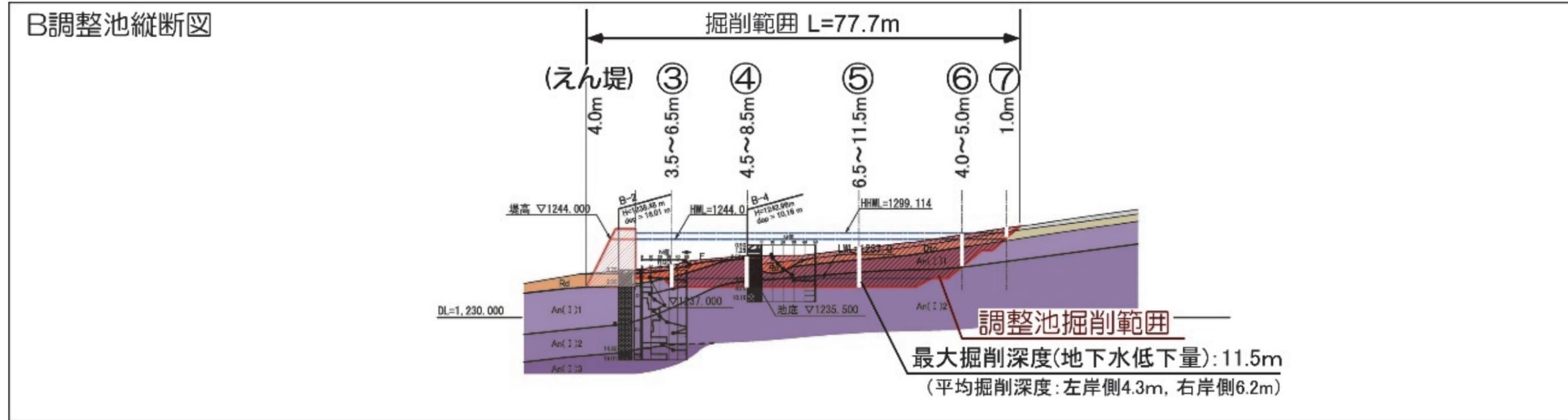
耐圧ポリエチレンタンク φ1500
S=1:50



※設計条件により、変更となる場合があります。

参考図

図 1-6-12-1 B調整池構造図



地質層序表

時代	地層名	土質・地質区分	地質記号	H27年報告書 調整池断面図 地質記号対比	
完新世	表土	黒ボク	F	F	
	河床谷底堆積物	玉石混じり砂礫	Rd	Rd	
	崖錐性堆積物	礫混じりローム 玉石混じり砂礫	Dtc	Dtc	
第四紀 更新世前期～後期	霧ヶ峰火山岩類 火山碎屑岩 I 凝灰角礫岩	強風化岩	Tf(I)1	—	
		風化岩	Tf(I)2	—	
	安山岩熔岩 I	強風化岩	An(I)1	Tf[1] (D)	An[1] (D)
		風化岩	An(I)2	Tf[1] (CL~CM)	An[1] (CL~CM)
新鮮岩	An(I)3	An[1] (CM~CH)			

図 1-6-12-2 B調整池縦断面図

調整池流域図 (C流域)

C調整池流域面積			
用途	開発前面積 (ha)	開発後面積 (ha)	摘要
地形改変用地	伐採のみ	—	31.6369
	土工範囲	—	0.0000
	道路(路面)	—	2.7089
	調整池	—	1.3176
	造成森林	—	0.0000
山林	124.8800	89.2166	
道路(既設)	6.2627	6.2627	
田・畑地	—	—	
宅地	0.3993	0.3993	
流域合計	131.5420	131.5420	

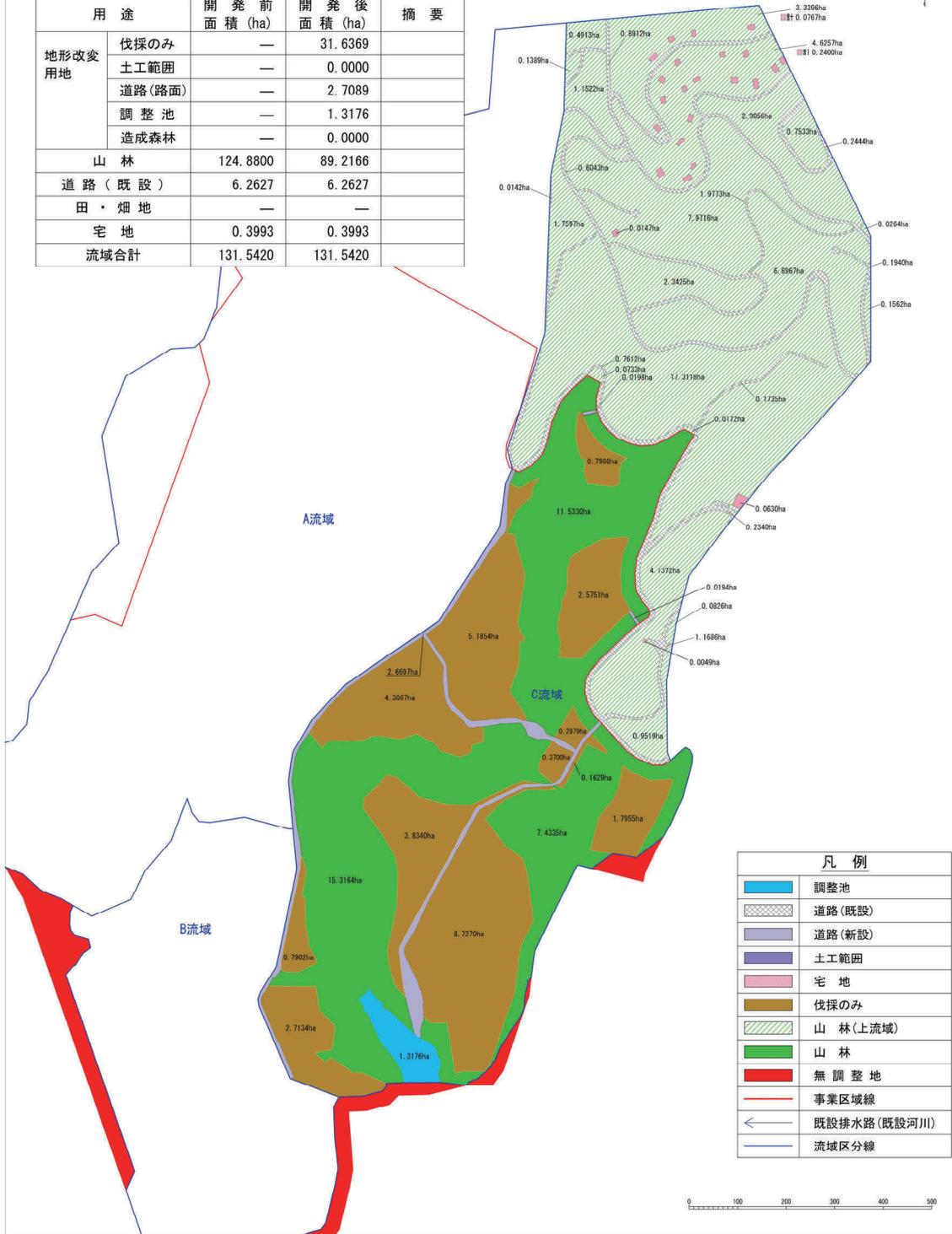


図 1-6-13 C調整池流域図

C調整池

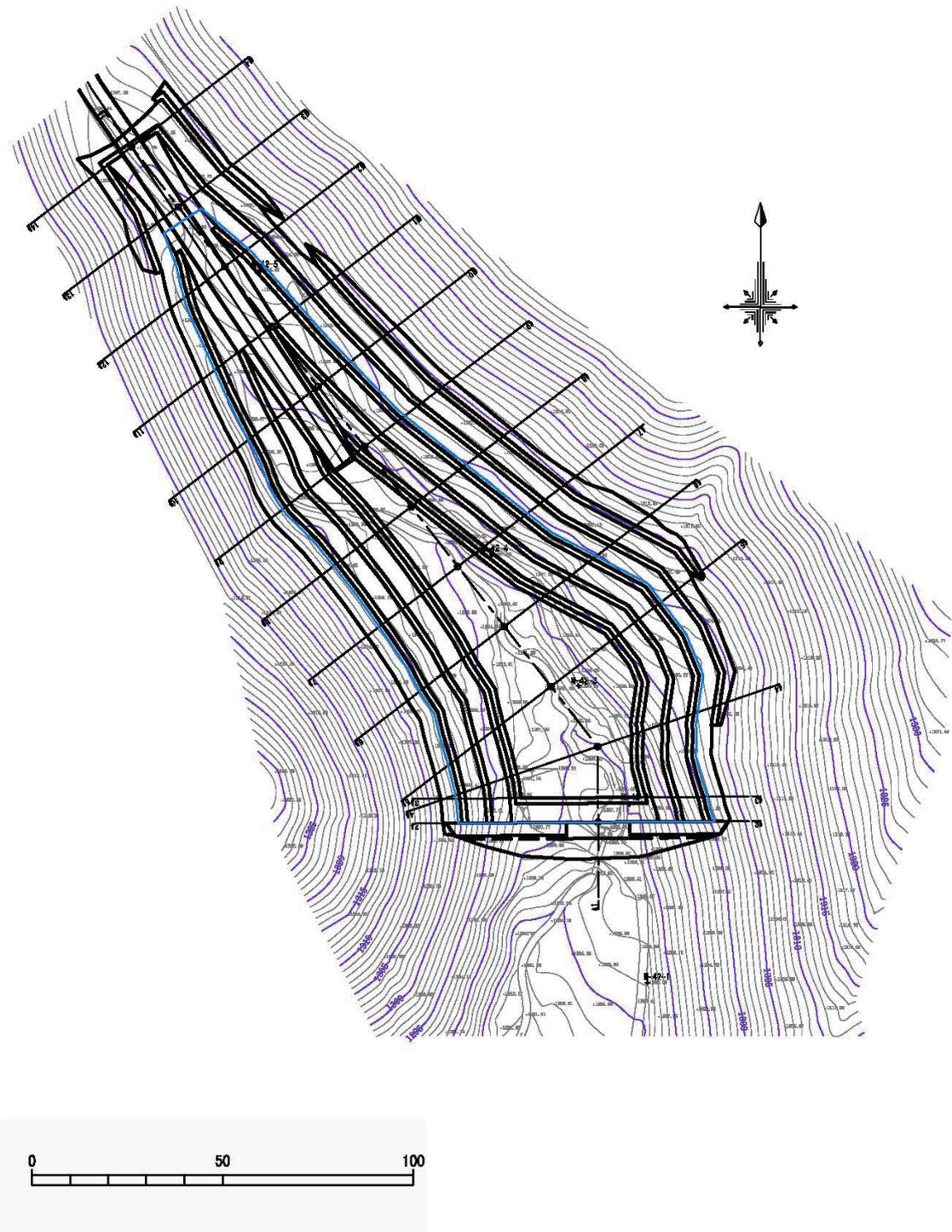


图 1-6-14 C調整池平面図

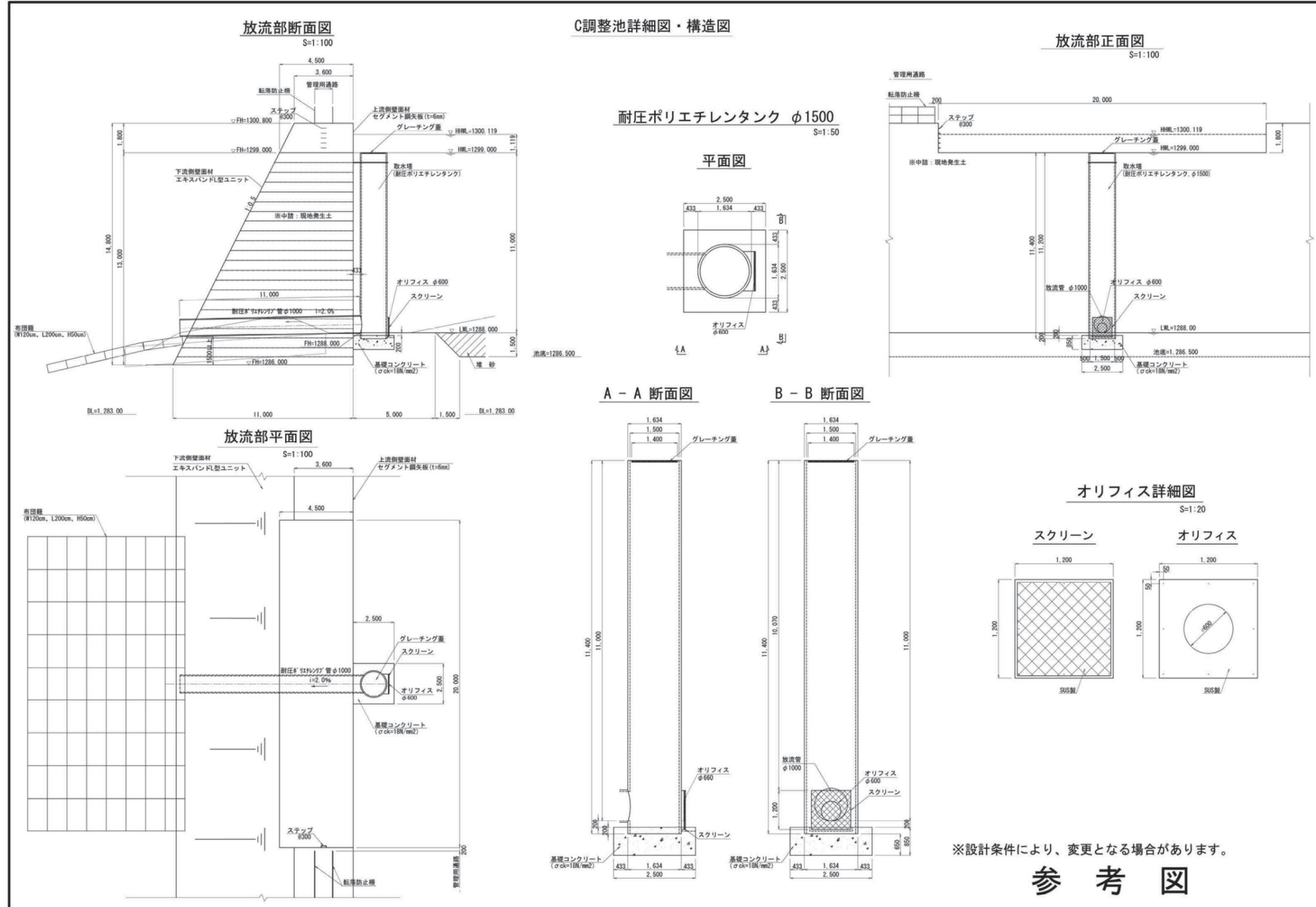
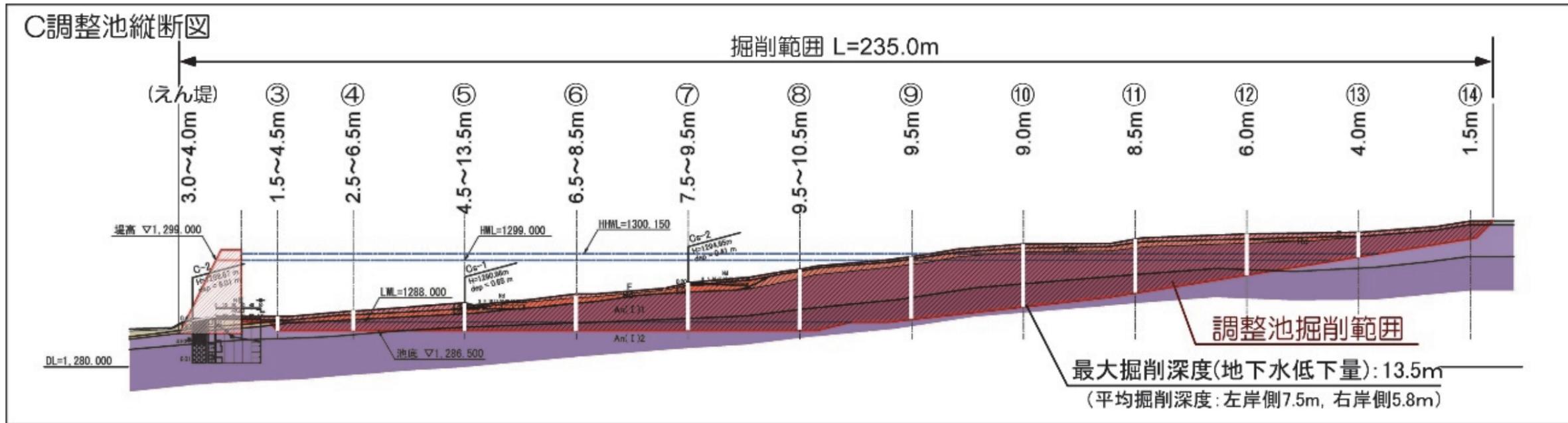


図 1-6-14-1 C調整池構造図



地質層序表

時代	地層名	土質・地質区分	地質記号	H27年報告書 調整池断面図 地質記号対比	
完新世	表土	黒ボク	F	F	
	河床谷底堆積物	玉石混じり砂礫	Rd	Rd	
	崖錐性堆積物	礫混じりローム 玉石混じり砂礫	Dtc	Dtc	
第四紀	霧ヶ峰火山岩類 火山砕屑岩 I 凝灰角礫岩	強風化岩	Tf(I)1	—	
		風化岩	Tf(I)2	—	
	安山岩熔岩 I	強風化岩	An(I)1	Tf[1] (D)	An[1] (D)
		風化岩	An(I)2	Tf[1] (CL~CM)	An[1] (CL~CM)
		新鮮岩	An(I)3	An[1] (CM~CH)	

図 1-6-14-2 C調整池縦断面図

調整池 標準断面図

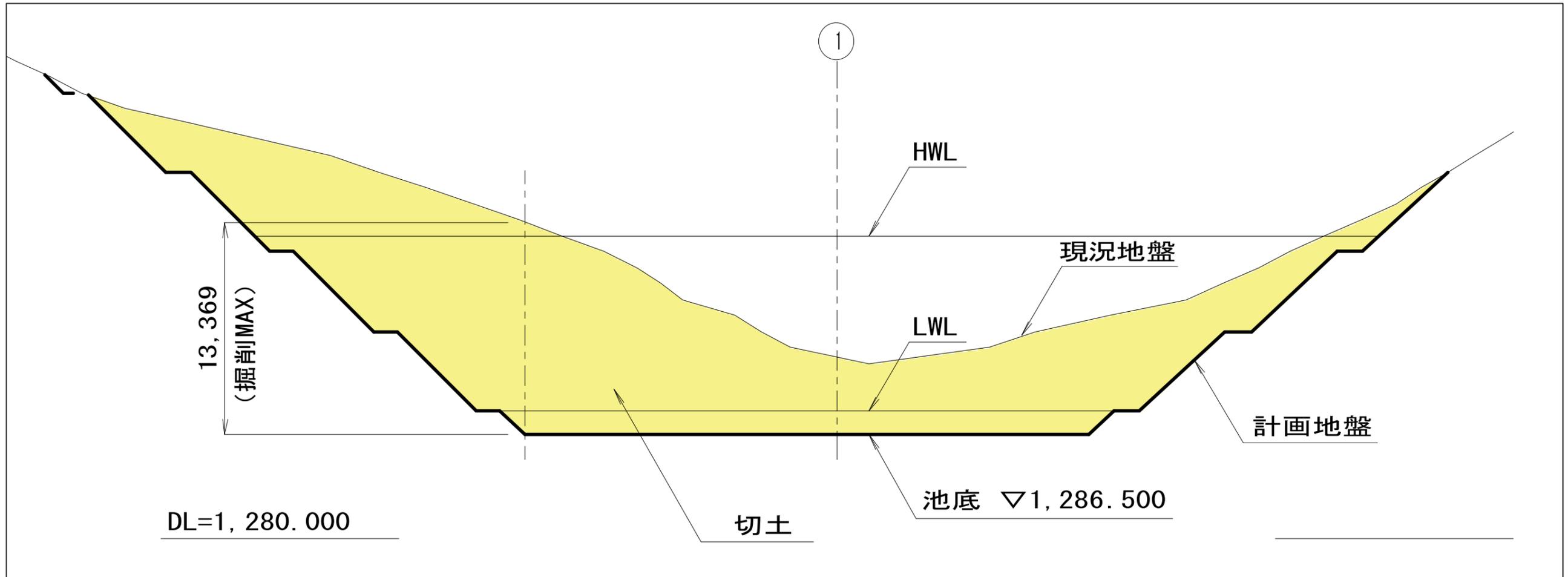


図 1-6-15 調整池標準断面図